

いつも市民の目線で!!

“山さんのホームページ”

www.k-yamasan.com

寝屋川市議会議員

山崎 きくお



平成23年10月号 (第100号)

九月定例市議会

決算認定は継続審査に

九月七日から二七日まで開かれた「九月定例市議会」は、市長から提案があった案件のうち、平成二二年度一般会計歳入歳出決算認定などを除く案件と、議員提案2件を、原案どおり可決して閉会しました。

決算審査は特別委員会で

また、平成二二年度一般会計歳入歳出決算認定など7件については、決算審査特別委員会を設置して「閉会中の継続審査」を行うこ

決算審査特別委員会の日程

10月18日(火)	午前10時~
19日(水)	"
20日(木)	"
21日(金)	"

決算審査特別委員会の構成

◎北川 光昭	○池添 義春
山崎 菊雄	廣岡 芳樹
野々下重夫	岡 由美
宮本 正一	安田 勇
吉羽 美華	太田 徹
中林 和江	(以上11名)

◎委員長 ○副委員長

とが決定しました。

市立保育所条例案も可決

市立もくれん保育所、すみれ保育所、ひなぎく保育所の3つの保育所を民営化



9月議会で一般質問をする山さん

する「保育所設置条例の一部改正」については、一部の議員から反対意見があったものの、採決の結果「賛成多数」で可決されました。

太田副市長も再任

また、最終日に、市長から「副市長の選任」について追加提案があり、採決の結果、賛成多数で太田潤氏が

の副市長再任(三期目)が決定しました。

「基本計画審議会」より答申

クリーンセンター建て替えに向けて

寝屋川市のごみ焼却施設(クリーンセンター)は、昭和五五年九月に稼動してから、既に三〇年以上が経過しています。

そして、一般的に「ごみ

焼却施設の耐用年数は二〇年程度」と言われる中で、市のクリーンセンターは、毎年2億円前後の費用をかけて補修をしながら稼動しているのが実態です。そこで、昨年五月に、学

識経験者や市内関係団体の代表などで構成する「ごみ処理施設建設基本計画審議会」を設置し、計一五回にわたって基本計画の内容を審議してきました。

そして、今年九月に審議会から市長に答申書が提出されました。

今後、市民の皆さんのご意見も参考にしながら、建設場所など具体的な基本計画が策定される予定です。

今月の山さんのミニ市政報告会

- とき 10月29日(土) 午後7時30分~
- ところ 北大利町公民館
- ◎どなたでもお気軽にご参加ください!

寝屋川市議会議員 山崎 きくお 事務所

〒572-0031 寝屋川市若葉町34番10号

TEL. 072-829-1900 E-mail. genkina@k-yamasan.com

大きな声で、元気なあいさつ!!
山さんのあいさつ運動

山さんの一般質問(要旨) ①

九月定例市議会では、一三〇一五日に「一般質問」が行なわれ、一八人の議員が市政全般にわたって市長や理事者の考えを質しました。

私は一三日のトップバッターで質問に立ち、次のような主旨の質問を行いました。

1. 国保財政の健全化を

【山さんの質問】

市民の皆さんから寄せられる苦情で一番多いのは「国民健康保険料が高すぎる。何とかならないか」というものだ。

平成二〇年に、新聞などで「寝屋川市の国保料が日本一高い」と取り上げられたことがある。その後、少し改善されたが、今もなお保険料は高い水準にあることは否定できない。

市長は、本年6月議会の所信表明演説で、「今後4年間に

国民健康保険財政の健全化に取り組み、保険料を引き下げ」と明言している。

具体策を明らかにされたい。

【市長の答弁】

医療費適正化事業及び収納率の向上事業を実施し、国保

財政の健全化に取り組む中で、平成二三年度保険料を引き下げたところだ。

今後、レセプト(医療報酬請求書)点検の強化、ジェネリック医薬品の啓発、重症化予防などの医療費適正化を一層進めるとともに、収納率の向上を目指して、また、その他の財源確保にも努め、国民健康保険財政の健全化を図ってまいります。(次号へつづく)

平成 25 年 4 月から

中学校給食を実施予定

市教育委員会では、かねてより保護者の皆さん等から要望が多かった「中学校昼食」を、平成 25 年 4 月から市内全中学校で実施するため、いま準備を進めています。

【中学校給食実施の目的】

- ①小中一貫教育を進める中、栄養バランスのとれた給食を提供することにより、生徒の体力の向上を図り、学力の向上につなげていく。
- ②学校給食を生きた教材として活用指導など、食育を推進していく。

具体的には、今年7月に学識経験者や学校の代表、保護者の代表で構成する「学校給食検討委員会」を設置し、中学校給食の方式、提供の方法などの検討が行なわれています。

山さんのフィルム

津波てんでんこ

先日、テレビで、三月十一日の東日本大震災で、地震発生から津波到達まで三〇分近い時間があったのに、全校一〇八人のうち八四人の児童と教職員(一〇人)が犠牲になった宮城県石巻市大川小学校の悲劇をとりあげていた。

一方、この大震災で岩手県釜石市でも、大津波によって一二〇〇人を超す死者と行方不明者を出した。だが、市内の三〇〇〇人近い小中学生のほとんどが無事に避難することができたのだ。

背景には、古くから津波に苦しめられてきた三陸地方の言い伝え『津波てんでんこ』(津波がきたら、自分の責任で一刻も早く高台に逃げろの意味)に基づいた防災教育があった。想定外の大津波が押し寄せる中、防災の教えが子供たちの命を救ったのだ。「生きた防災教育」の大切さを痛感した2つの例である。